

学校便り

第314号
平成25年7月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

知・徳・体のかけ算

校長 鈴木 隆志

6月は、アジサイの花々が私たちの生活に彩りを添えてくれました。正門から続くプロムナードはアジサイの道になりました。八小の北側、ゆりの木通りは別名アジサイ通りです。八小からお分けした株も大きく育ち、素敵な花を咲かせています。アジサイの花を光っ子にたとえるならば、一つ一つの花が、光っ子一人一人です。花のかたまり（花序）が、学級や学年です。そして、アジサイの木の全体が、八小です。一人一人の光っ子が花を咲かせ、学級や学年の花となり、八小全体の素敵な木になっているのです。アジサイの花びらに見えるところは、花びらではなく、萼片（がくへん）です。本当の花は、目立たないところに咲いています。このことも、光っ子たちに似ています。目立つ花のような子もいれば、目立たないけれど確実に実を結ぶ花のような子もいます。どの花も素敵です。

『すすんで学ぶ子供』『仲良く助け合う子供』『健康で明るい子供』これは、八小の教育目標です。八小は、光っ子たちの「知・徳・体」をバランスよくはぐくんでいく学校です。それが、生きる力につながっていきます。言い換えれば、生きる力・生き抜く力には、「知」「徳」「体」の三つの要素が欠かせないのです。私は、「生きる力＝知×徳×体」のかけ算なのだと考えています。「知＋徳＋体」のたし算ではありません。

「知」や「体」は、先天的な資質によるところもありますが、頑張ることや努力することによって後天的に身に付く部分が多くあります。どちらも0点から100点まで点数をつけられるでしょう。「徳」は、心のあり方や生きる姿勢、考え方ですから、三つの要素のうちでも最も大事なことです。これには0点以下のマイナスの点数がつくこともあるでしょう。「生きる力＝知＋徳＋体」ならば、「知」や「体」が100点で「徳」が－100点でも、たし算の答えは100点となります。かけ算ではそうはいきません。かけ算の答えは－1000000点です。「徳」がマイナス点だと、かけ算の答えは必ずマイナス点になってしまいます。思いやり、協力、協調、共感、受容、親切、友情、共生、感謝といった「徳」を積み、豊かな心を持ち、自他の人格を尊重し、人と人とのかかわりを大切にしながら、相手の立場に立って物事を考え、判断し、行動できる光っ子に育ててほしいのです。

知・徳・体のかけ算ですから、三つの要素がバランスよく育っていけば、答えつまり生きる力は、大きな力となって表れるはずですが、また、知や体の力が平均点でなくても、徳の力を磨いていけば、補って余りある力にもなるのです。

知や体の力を磨くには、黙々と勉強をしたり黙々と体を鍛えたりすることで、一人でもできることかもしれません。しかし徳の力はそうはいきません。思いやりも協力も協調も共感も受容も親切も友情も共生も感謝も、相手なしではできません。だからこそ、家庭の中で、地域の中で、学校の中で、人とのかかわりを大切にしながら、徳の力を磨いていかなければならないのです。そして、そもそも徳の力に何点という点数はつけられません。だからこそ、家庭も地域も学校も、よい考えやよい判断やよい行動には、逃さずに褒めて評価をしてあげなければならないのです。

アジサイの花は、一つ一つの花、一人一人の花の集合体です。一人一人の生きる力を伸ばしながら一つ一つの花を咲かせ、花序としても木全体としても美しくありたい。それが、八小の願う姿です。